

無形民俗文化財「祭り」の保存と継承に必要な情報とその変遷をアーカイブ化するための記述方法の検討

西尾美沙季[†] 杉山岳弘[†]
静岡大学[†]

1. はじめに

近年、地域の伝統的な祭りのデジタルアーカイブ化が進んでいる。「浜松おまつり暦」^[1]など、祭りの情報のアーカイブ化の例に加え、映像・画像のアーカイブ化^[2]、モーションキャプチャによる伝統舞踊の動きのアーカイブ化もある^[3]。本研究では、情報のアーカイブ化の位置づけで、祭りの保存と継承に必要な情報とその変遷をアーカイブ化する方法を検討する。

現在のデジタルアーカイブにおいて、祭りの歴史すなわち変遷は、祭りの紹介文に含まれることが多いが、この方法では祭りの変遷を俯瞰したり、類似した祭りの間で系統付けて見たりすることは難しい。そこで本研究では、保存と継承のために必要な情報を検討し、祭りそのものを記述する方法を検討する。さらに、その情報の変遷を記述、参照できる仕組みを検討する。

2. 祭りそのものを記述できるデータ構造

2.1 データ構造の概要と検討方法

データ構造に使用するメタデータについては、「祭りの保存と継承に必要な情報であること」を基準に検討する。具体的には、祭りの開催に必要な要素（祭りの開催日、場所、運営のための組織など）、継承したい情報（祭りの伝承、特徴、その年に起こった変化の内容など）である。

基本的な検討として、Web上の資源を表現するメタデータ標準 Dublin Core^[4]と共通語彙基盤^[5]を使用する。これらから祭りの記述に適したメタデータを選択する。加えて、必要な独自のメタデータを追加する。

2.2 データ構造の検討と実データ記述

まず、データ構造の検討として、具体的に「舞阪大太鼓まつり」を対象とし、資料収集と取材を行い、必要な情報の抽出と整理を行う。さらに、「二俣まつり」などの他の祭りの情報と比較しながらそれぞれの祭りに適したデータ構造を検討する。

【舞阪大太鼓まつりに関する情報の検討】

舞阪大太鼓まつり（静岡県浜松市西区舞阪町）は、毎年旧暦9月14日～15日に行われる。祭りの行事の時間配分に厳しく、時間を組織全体に知らせる古い伝統「三度の使い」を守り続ける。祭りに関する情報の収集には、郷土資料^{[6],[7]}の収集に加え、開催4ヶ月前から祭り当日まで7回の取材を行った。集めた情報を整理し、祭りを構成する要素とその関係性を記述し、分類する(図1)。なお、この祭りにおいては、昭和期に参加町が競って太鼓を大きくした歴史があり、分類「道具」の中では、「大太鼓」が重要な位置を占めている。

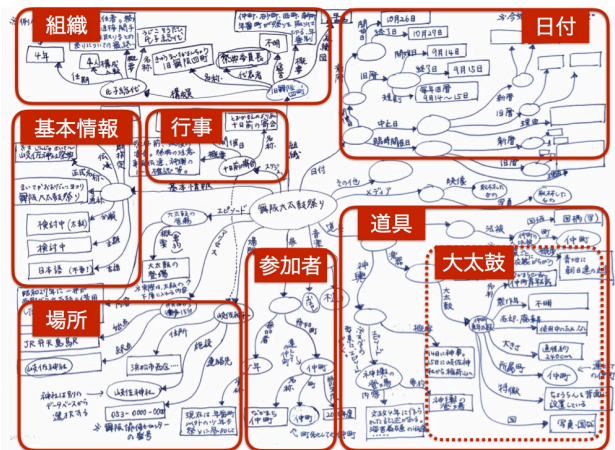


図1 舞阪大太鼓まつりの情報の検討結果

【他の祭りの情報の比較】

図1で書き出した情報について、他の祭りでも同様に検討を行い、共通部分と固有部分を明確化する。対象とした祭りは、二俣まつり（静岡県浜松市天竜区二俣町）である。

二俣まつりは、毎年新暦8月21日に近い金～日曜日に行われ、氏子14町（2015年は13町）の屋台引き回しが行われる。屋台を後ろ向きに引く「もどせ」が特徴である。

前述と同様に検討を行い、舞阪大太鼓まつりと比較する。舞阪大太鼓まつりにおける「大太鼓」は、全国的にも珍しく固有の情報である。二俣まつりでは「屋台」が重要な特徴であるが、屋台を使用する祭りに共通する情報である。

【現段階のデータ構造】

A Study of Archiving the Information Necessary for Preservation and Inheritance of Japanese Traditional Festival
[†]NISHIO Misaki, SUGIYAMA Takahiro/Shizuoka University

現段階の祭りのデータ構造を表1に示す。大きく3種類あり、(1)すべての祭りに共通する情報、(2)分類的に似ている祭りに共通する情報、(3)特定の祭りに固有な情報である。このような情報を柔軟に記述するため、適宜メタデータを追加する必要がある。そのために、RDF (Resource Description Framework) で記述する。RDFとは、情報資源の関係を示す基本単位である主語-述語-目的語の三つ組(トリプル)を組み合わせることで柔軟な記述が可能で、さらに、機械可読な形で情報資源を記述する技術である。

表1 祭りのデータ構造の一部

分類	メタデータ	説明	
共通	基本情報	名称	祭りの名称
		文化財区分	祭りの文化財区分。または「未指定」
		伝承	盛ん、順調、危機
		人数	祭りの参加者人数
	date[日付]	開催日[旧暦/新暦]	祭りの開催日
	行事	名称	行事の名称
		開催日	行事の開催日
		場所	行事を行う場所
		対象者	行事に参加対象の者
	場所		祭りの開催場所
	組織		祭りを主催する組織
	参加者		祭りの参加者
	エピソード		祭りに関するエピソード
分類ごとに共通	道具	祭りで使用する屋台	
固有	屋台		
	楽器	祭りで使用する大太鼓	

3. 祭りの変遷を記述する仕組みの検討

祭りを理解し、継承と保存に必要な情報をアーカイブ化するには、祭りの変遷を記述する必要がある。祭りの変遷の記録は、古文書や郷土資料、組織の記録などに分散し、まとまっていない。これを、年代ごとに変化した部分記録し、必要な情報について過去の変化を俯瞰することで、祭りを理解し継承に役立てたい。

3.1 祭りの変遷を記述する仕組みとは

まず、多くの情報を集めることができる年代の情報をマスターデータとする。そのデータを基準として、過去に遡り年代ごとに祭りの変化の差分を記述していく。これらを組み合わせることで「ある祭りのある年代の情報」を参照する仕組みを作成する(図2)。以下に、データの追加と参照について説明する。

【データの追加】

データを追加する際は、変遷のデータとその年代情報を記述する。このとき、マスターデータよりも追加する年代に近いデータがあれば、そのデータとの差分を記述する。

【データの参照】

ある年代を参照する場合、まず、その年代のデータを取得する。その年代に差分データが記述されていない場合は、古い年代のデータを参照し、データ構造に反映する。この際、データ元の年代情報も表示する。古い年代にもデータ

が記述されていない場合には、新しい年代を参照してデータと年代を表示する。

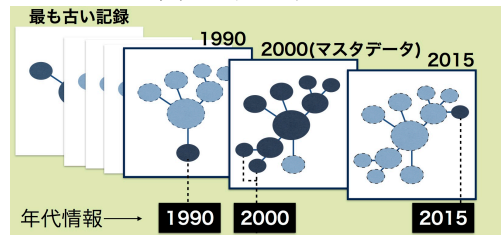


図2 マスターデータとの差分記述イメージ

3.2 実装と検証

【実装方法】

年代ごとにRDF/XMLファイルに変遷データを記述する。PHPでそのファイルの変遷データを反映させ、表形式で表示する。

【データの参照の検証】

舞阪大太鼓まつりの変遷を反映した結果を使用して、データの参照の検証を行う。祭りの保存と継承の視点から、検討したデータ構造の妥当性、変遷の記述方法の妥当性の2点について検証する。祭りの主催者(舞阪大太鼓保存会)と祭りの専門家(浜松市役所市民部文化財課)へのヒアリングを行う予定である。

4. まとめ

祭りの保存と継承に必要な情報を記述するためのデータ構造とその変遷をアーカイブ化する方法を検討した。今後は、システムを使用した地域の観光ビジネスへの応用を検討していく。

謝辞

取材にご協力賜りました舞阪大太鼓まつりおよび二俣まつりの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。本研究の一部は科研費基盤研究(C)15K01147の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 静岡大学情報学部杉山岳弘研究室, “浜松おまつり暦”, <http://www.hama365.info/matsuri/>, (参照 2016-01-07).
- [2] NPO 日本の祭りネットワーク, “NPO 日本の祭りネットワーク”, <http://www.nippon-matsuri.net/>, (参照 2016-01-06).
- [3] 八村広三郎: モーションキャプチャによる舞踊のデジタルアーカイブ, 情報処理学会研究報告コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM), 2007(1(2007-CVIM-157)), pp.1-8 (2007).
- [4] 杉本重雄: Dublin Coreについて第1回 概要, 情報管理, Vol.45, No.4, pp.241-254 (2002).
- [5] 独立行政法人 情報処理推進機構, “共通語彙基盤 | 共通語彙基盤整備事業” <http://goikiban.ipa.go.jp/>, (参照 2016-01-06).
- [6] 舞阪町立郷土資料館: 舞阪大太鼓まつり: 舞阪宿の歴史とくらし, 舞阪町立郷土資料館資料集 / 舞阪町立郷土資料館編, 第5集(1999).
- [7] 舞阪町史編さん委員会: 舞阪町史 上巻(1989), 舞阪町史 中巻(1996).